

林業の担い手を目指して
—全国植樹祭から学んだこと—

秋田県立鷹巣農林高等学校森林環境科 2年 小塚大地・金田直幸
長谷川和樹・堀部憲正

平成20年6月15日、「手をつなごう 森と水とわたしたち」のテーマのもと、第59回全国植樹祭が盛大に行われました。この全国植樹祭は、国民に森林に対する愛情を^{つちか}培うことを目的に毎年行われているものです。



私たち鷹巣農林高校森林環境科も、微力ながら大会を盛り上げようと、記念キーホルダーの作製や各種イベントに参加してきました。そして、実際に全国植樹祭にも参加し、一般の方への植樹指導なども行いました。その全国植樹祭までの取り組みと、全国植樹祭から私たちが学んだこと、さらに、その後の私たちの活動を紹介したいと思います。

1. 全国植樹祭高校生会議

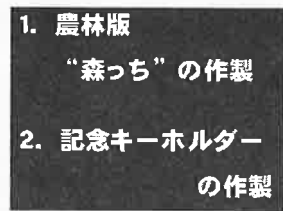
平成18年。鷹巣農林高校など、開催地である北秋田市4校の高校生で組織し、植樹祭の運営や各種行事について提案する、「全国植樹祭高校生委員」が^{ほつそく}発足しました。本校からは藤嶋^{まさひと}聖人さんが委員長として選ばれ、北秋田市4校のリーダーとして組織を引っ張りました。



高校生会議で話し合われた結果、鷹巣農林高校は植樹祭までの事前準備の補助、植樹指導、木工品と農林版森っちの作製、大会当日に高校生委員会のブースを開き、木酢液などの販売と学校紹介を行うことなど、様々な取り組みを行うこととなりました。

2. ”農林版森っち”と”記念キーホルダー”の作製

私たちは大きく2つの作業をすることになりました。1つは、杉の葉で作る”農林版森っち”の作製。そして、もう1つは、記念キーホルダーを作製するというものでした。農林版森っちは、北欧の杜パークセンターの中でお客様をお迎えする目的で作製されました。作り方は簡単です。角材を使って森っちの大枠をある程度作り、そこに^{あみめ}網目状になっている針金をかぶせ、森っちの^{りんかく}輪郭を作ります。網目状になっているところに杉の葉をさし入れ、ハサミで形を整え完成となります。全国植樹祭当日は、北欧の杜^{もり}パークセンター内でお客様をお迎えし、大変喜ばれました。現在もパークセンター内で^{まっつと}任務を全うしているとのことです。



次に、記念キーホルダーです。ブナの角材を3

c m程度の大きさに切り分け、表面をヤスリで丹念に磨き、その面に焼き印をして出来上がりです。簡単な木工品ですが、予想以上に時間がかかりました。ちなみに、焼き印は2種類用意しました。1つは、「日本の林業を支えていく」という強い信念を持って頑張っていきたいという気持ちを込めて「林業魂」というメッセージを。もう1つのメッセージは「林業万歳」です。林業の技術を衰退させること無く、来たるべく国産材時代に向けて、林業に対する振興を深めてもらいたいという気持ちの表れで、森林環境科全生徒で1つ1つ心を込めて作りました。



私たちの作ったキーホルダーは、学校祭で全国植樹祭のPRも兼ねて販売されました。また、植樹祭にさきがけて行われた林業後継者会議、そして、大会式典会場の高校生委員会のブースでも販売され、大好評でした。

3. 植樹ボランティアへの参加

平成18年11月。高校生会議のなかで、植樹ボランティアを開催しようという声上がり、北秋田地域振興局の方々の協力もいただきながら「未来へ残そう森と緑」と題して、北欧の杜公園周辺で植樹ボランティアを行いました。この日は、竜森小学校、生涯学習講座高鷹大学受講生など50名を超える参加者を迎え、広葉樹を中心に植樹活動を行うことができました。このボランティアは現在の3年生が2年生の時にいき、当時1年生だった私たちは参加できませんでしたが、練習のため学校から北欧の杜までランニングしていた本校野球部も飛び入り参加するなど、とても盛り上がったようです。



4. 100日前イベントへの参加

平成19年3月8日。この日は、全国植樹祭本番まで100日前ということで、記念イベントが行われました。この写真は、その時の様子です。このイベントは、全国植樹祭への関心を高めようと開催されたもので、北秋田地域振興局の方々が主体となり、チェーンソーアートの実演、廃油と苛性ソーダを利用した石けんづくり体験など、多彩なプログラムが組まれました。私たち鷹巣農林高校生も参加させていただきました。時間の関係上、詳しい説明はできませんが、とても盛り上がったイベントでした。



5. 全国植樹祭

平成20年6月15日(日)。いよいよ全国植樹祭本番です。天皇皇后両陛下の御臨席のもと、県内外から1万人を超える参加者がブナ、秋田スギなど24樹種、1万2千本の苗木を植樹しました。



私たち鷹巣農林高校生は、主に植樹指導を担当しました。タイムスケジュールに従って、参加者へ説明や指導を行いました。この写真はそのときのものです。

午後3時頃。最後の植樹指導が終わり、全国植樹祭の全日程を無事終了しました。長期間にわたり取り組んできた活動もこれで終わりです。それまでは、自分たちの活動は小さなものだと思っていましたが、ニュースや新聞から植樹祭の様子を振り返ってみると、改めてスケールの大きい国民的行事だということを感じることができましたし、その行事に微力ながらも参加できたことは、私たちにとっても大きな財産になったと感じました。

6. 全国植樹祭で学び、私たちが考えるべきこと

秋田県で全国植樹祭を開催するにあたり、その基本方針が打ち出されましたが、私たちは、事前学習会の席上でその基本方針を目にすることが出来ました。開催理念には、「子どもから大人まで幅広い世代の参加により、自然との新たな関係を構築するとともに、愛着と誇りを持てるふるさとの森と川と海を守り育み、未来へ力強く継承していくこと。」とありました。



私たちが学校で学んでいる授業や実習は、まさにこの理念を支える基礎・基本を学んでいると思います。この全国植樹祭を迎えるまでの期間、また、これまで紹介・報告したことを通じて、その思いは更に強いものとなりました。時代の変化と共に生活環境など、人間の営みが大きく変化し、人が森と関わる機会や場面を奪っている今、秋田県で唯一林業について専門的に学べる学科である森林環境科の私たちが、その知識と技術を身につけ、自然と共存するための架け橋になっていくことが大切だと、植樹祭に参加して感じました。



植樹祭終了後、自然との新たな関係を構築するため、また、人が森と関わる機会を増やすきっかけとするため、様々な取り組みが始まっています。大きく2つをご紹介します。



1つはチェーンソーアートに挑戦することでした。100日前イベントなどでお世話になった古河林業、北秋田市チェーンソーアートクラブの方々、そして、岩手県から講師を招き、実演だけでなく、チェーンソーの扱い方から彫刻の作り方まで丁寧に教えていただきました。間近でみる迫力と芸術性の高さに、私たちは感動しました。講習は1日だけでしたが、実習の時間を利用して、未完成だったフクロウを完成させました。その作品はこちらになります。私たちの作品は学校祭で展示し、とても好評でした。来年度も継続して行いたいと思っています。

次に、3年生が行っている「森林マスターズ」をご紹介します。

3年生になると、週に2時間「課題研究」という授業があります。大きく4つのグループに分かれ、それぞれテーマを設定して課題解決に取り組めます。そのうち、育林班では、林業の担い手育成の一環として、「森林マスターズ」を結成。写



真のような告知を北秋田市の広報に掲載してもらったところ、これが思いの外大反響。予想以上の問い合わせに、先生方も驚いていました。

8月頃から行った今年度は、10件ほどのお宅を訪問し、下刈り、間伐、除伐といった作業を行ったようです。来年度も継続的に行うと聞いていますので、私たちも是非、チャレンジしたいと考えています。

私たちは、自然から無償の恩恵を数多く受けています。同じように、今年度は全国植樹祭から大きな恩恵を受けました。自然を大切にすること、その必要性は誰でも知っています。でも、その手段や関わり方などは、知識や技術を伴わないとできないこともあります。「経済」から「環境」へ、「もの」から「ところ」へと時代が変化しつつある今こそ、林業を学ぶ私たちが、森林などの自然にふれあう機会を増すための努力をしていかなければいけないと思います。もし、私たちの進路が林業に関わる職種でなくても、林業に理解を示し、技術・知識を備えていれば、親から子供、そして、その子供から孫の世代までの継承^{けいしょう}が望めると考えます。

私たちは、今、このときを大切に、残り1年の学校生活を有意義に過ごし、自然と共存するための術^{すべ}を学んで卒業したいと思います。



森林ハスターズの活動の様子



植樹祭からいろいろ学びました



植樹祭からいろいろ学びました

